

海業の事業計画骨子（案）【静岡県牧之原市 地頭方漁港】①

1. 現状と課題

【地域・水産業の現状と課題】

- 静岡県牧之原市の最南端に位置する地頭方は、御前崎市と隣接し御前崎港の一部が立地している。
- 牧之原市の東部には日本一の水深を誇る駿河湾、南部には遠州灘があり好漁場に恵まれているが、近年は漁獲量が減少し、魚価向上や漁家の所得確保対策が望まれている。
- 市域をまたぐ漁協合併にともなう市場機能の喪失、防潮堤の改良工事にともなう市営プールの閉鎖により、地域の賑わいが失われている。沿岸部の活性化に向け当地区においても地域主体の取組が進められている。



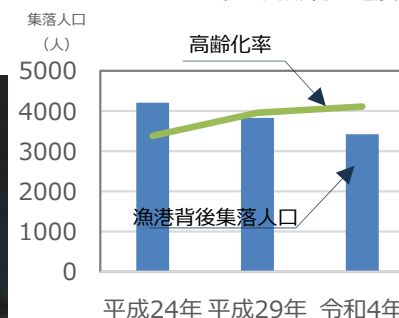
【海業の現状と課題】

- 未利用魚の活用に取り組んでいるが、漁業者の減少・高齢化が進み、漁業者だけで海業を推進することは困難となっている。
- 漁港区域内には広い漁港用地があり、隣接する海浜公園からは富士山や駿河湾の眺望を楽しめるため、海業での活用可能性がある。
- 海浜公園周辺の水面は、水上バイクやSUPの活動場所・大会会場としても利用されており、漁業利用とマリンスポーツの共存のための仕組みが必要。
- コロナ禍前の観光客数（H27～R1年の平均）は、牧之原市は約137万人、御前崎市は約216万人で、漁港を核とした交流機会の創出により水産物の消費の拡大可能性がある。

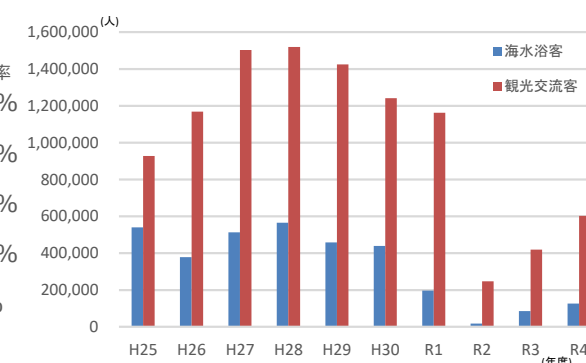


■ 漁港背後集落の人口と高齢化率

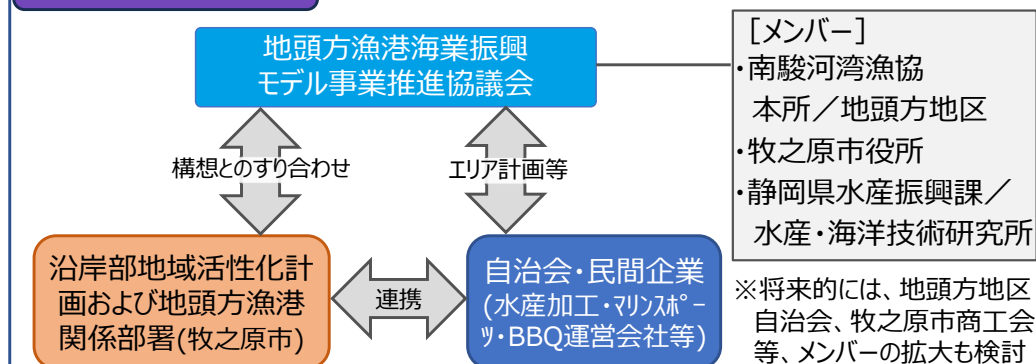
※人口減少と高齢化の進展



■ 海水浴・観光交流の推移



2. 検討体制



海業の事業計画骨子（案）【静岡県牧之原市 地頭方漁港】②

3. 海業の方針

水産業・地頭方漁港を核として、県内外から観光客やマリンスポーツ愛好者を呼び込むことで**賑わいを創出し**、**水産物の消費拡大**による魚価向上や所得確保を図るとともに、**地域漁業の担い手を確保**する

【取組】

- 公園区域の新たな活用やイベントの拡大による地頭方漁港の**賑わいづくり**
 - －外部団体と連携しマルシェに漁協が出店、新たにトラック市も展開、民間企業との連携で地元の水産物を提供する施設、直売所の整備等
- マリンスポーツとの共存、漁港の適切な利用のための**ルールづくり**（関係者による協議会の開催）
- 海の利用ルール等の情報発信機能をもった漁港の利用**拠点づくり**

4. 海業の具体的な取組・実施主体（案）・期待される効果

※各施設の具体的な位置や規模、デザイン等は、地区住民や行政等と連携して事業主体が検討を進める。（特に海浜公園は、公園条例等も踏まえて検討する）

①マルシェ・軽トラ市での水産物・水産加工品販売（漁協）

【期待される効果】

- 賑わいの創出
- 域内での水産物消費拡大
- 水産業への理解増進
- 観光客の滞在時間の増加
- 域内産業の活性化
- 観光地としての魅力の増大

②直売所整備（民間企業・漁協等）

【期待される効果】

- 域内での水産物消費拡大
- 漁業所得の向上
- 賑わいの創出
- 地域の雇用の創出

○実証試験の実施：直売所

※仮設の施設等により実験的に実施
（駐車場予定地近傍で検討）

③地元水産物の提供施設（レストラン・バーベキュー場等）整備（民間企業・牧之原市等）

※運営は民間企業等を想定、位置や規模等は今後の検討

【期待される効果】

- 域内での水産物消費拡大
- 漁業所得の向上
- 賑わいの創出
- 地域の雇用の創出

④情報発信施設整備（牧之原市）

※海の利用ルールを発信する場

※直売所に併設（管理運営は漁協・民間企業等が連携）

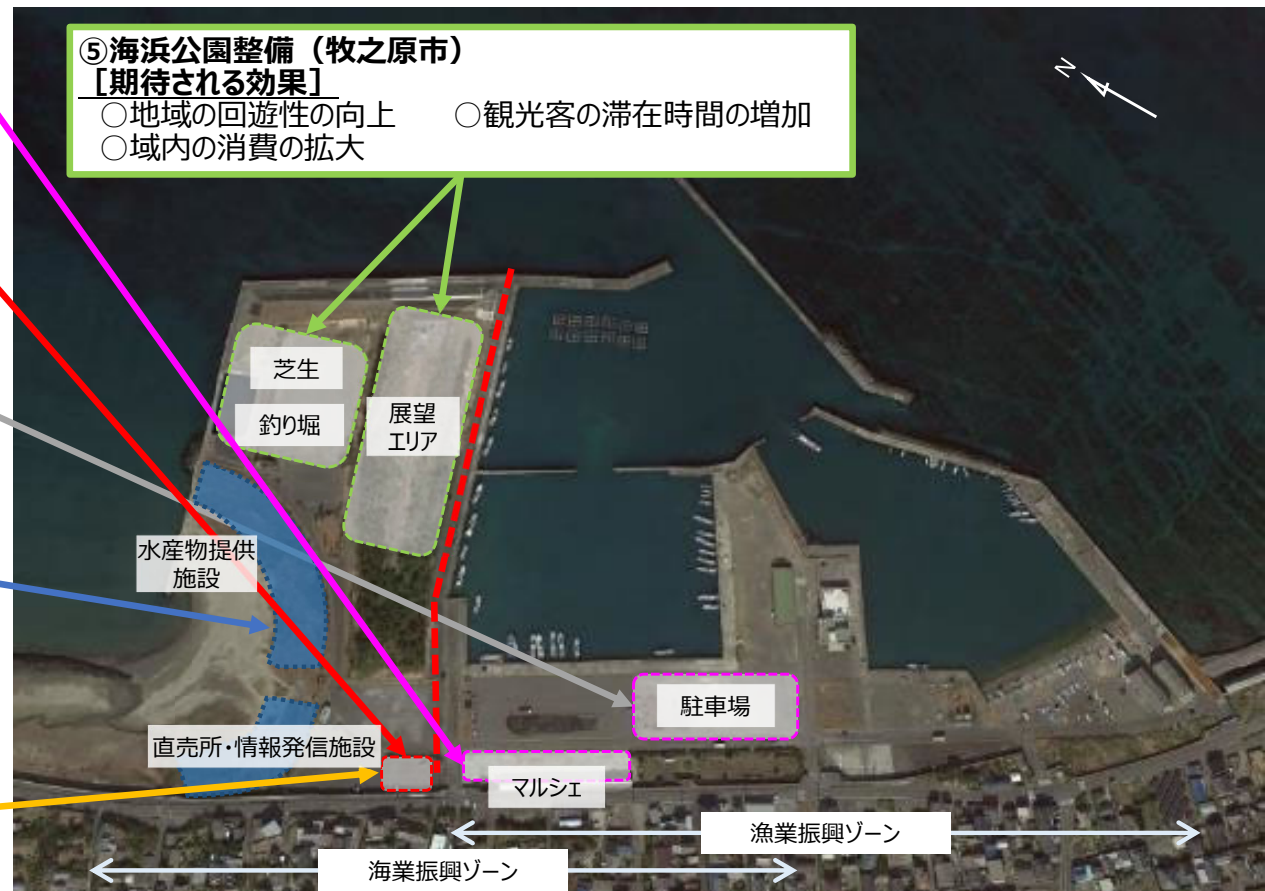
【期待される効果】

- 水産業への理解増進
- 観光客の滞在時間の増加
- 域内産業の活性化
- 観光地としての魅力の増大

⑤海浜公園整備（牧之原市）

【期待される効果】

- 地域の回遊性の向上
- 観光客の滞在時間の増加
- 域内の消費の拡大



※マリンスポーツ関係者との協力により、イベント等の開催
（堤防工事によりマリンスポーツショップが短期移転）